



# 「社会・産業と最先端の学問を幅広くつなぐ『工』の精神」の下、今と未来、人と人など多様なものをつなげていく

工学院大学  
学長  
今村保忠

**学長プロフィール** いまむら・やすただ ● 1959年鹿児島県生まれ。東京大学教養学部基礎科学科卒業。同大学院理学系研究科博士課程中退。理学博士(東京大学)。専門分野は生物化学、マトリックス生物学、細胞工学。国内外の研究活動を経て、2006年に工学院大学に着任。工学部応用化学科および先進工学部生命化学科で教鞭を執り、副学長、先進工学部長、理事を歴任し、2024年4月より現職。

**大学プロフィール** 1887年工手学校創立。1949年工学院大学開学。先進工学部(生命化学科、応用化学科、環境化学科、応用物理学科、機械理工学科)、工学部(機械工学科、機械システム工学科、電気電子工学科)、建築学部(まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科)、情報学部(情報通信工学科、コンピュータ科学科、情報デザイン学科、情報科学科)の4学部15学科および大学院工学研究科を擁する。東京都新宿区(新宿キャンパス)、東京都八王子市(八王子キャンパス)。

**工** 学院大学の源流は、1887年設立の工手学校にあります。工手とは、最先端の技術を実社会に活かす指導者の人材のこと。創立当時の本学では、工手をそのように位置づけ、技師と呼ばれていた大学の専門教員と、現場の職人をつなぐ技術者の養成に努めてきました。1928年に工学院と校名を改めて以降も、「社会・産業と最先端の学問を幅広くつなぐ『工』の精神」は受け継がれてきましたが、個人的には、「社会・産業」と「最先端の学問」のみならず、何かと何かをつなぐことが、「工」の精神だと感じています。例えば今と未来をつなぐこと。社会の変容を敏感に捉え、今、求められていることに即応する教育はもちろん、先進工学部に代表されるような30年先を見据えた教育にも力を注いでいます。

また、異なる学問領域をつなぐ点では、分野横断型の教育・研究プログラムを進めていますし、外部評価委員として、産業界や教育関係者などに加え学生にも入っていたり、内部質保障体制において多くのステークホルダーと大学運営をつないでいます。さらに、全国21支部の後援会単位で父母懇談会を開催する際は、保護者の皆さんが、教員と個別面談できる機会を設けています。

本学には、専用のシャトルバスによって最速45分で結ばれた、新宿と八王子にそれぞれ特色あるキャンパスがあります。前者は新宿駅徒歩5分という好立地。経済・文化の中心かつ多様性の面でも世界に誇る街の真ん中で、学生は多くの刺激を受けています。今後、改修を進めることで、より理想的な教育研究環境となるでしょう。一方の八王子キャンパスは、研究やものづくりに没頭できる施設設備が整っています。

2037年の創立150周年に向けた長期目標「VISION 50」には、「無限の可能性が開花する学園」という文言があります。可能性とは、学生一人ひとりの可能性のみならず、大学自体のそれも含まれます。これまでも本学はさまざまなことに挑戦してきました。例えばハイブリッド留学<sup>®</sup>は、本学教員を現地に派遣し、専門科目を日本語で授業することで、語学力に対する不安をやわらげ、留学のハードルを下げる本学独自のプログラムであり、2014年の開始以降、700人を超す学生が参加しています。

また、機械理工学科には、パイロットを目指す航空理工学専攻を設け、今も米国の提携校で5期生が訓練を受けています。こちらは少人数の取組とはいえ、新たな枠組みをつくる過程で蓄えた知見は別の挑戦に活きるはず。COVID-19による緊急事態宣言下において遠隔授業に円滑に移行できたのも、情報学部をもつ強みに加え、ICTの積極導入など、全学的な挑戦の蓄積があったからです。学生、教職員が協力し危機を乗り越えたという一種の成功体験も、今後さまざまな課題を克服する原動力となるでしょう。

63 Career Guidance 2024 OCT. Vol.452